

4 自然環境 –水辺や緑に囲まれたまちをつくります–

※青字部分 数値目標を定めていない計画事業に関する記述

施策の柱	施策の達成状況	課題	今後の方向性
①花とみどりのまちづくりの推進	(公園・児童遊園の整備) ●数寄屋橋公園や湊町第一児童遊園の全面改修では、地域住民の要望を可能な限り反映し、安全で快適な広場や遊び場などの充実を図った。 ●区民一人当たりの公園面積は、人口の大幅な増加により、 4.84㎡ (平成23年度)から 4.40㎡ (平成27年度)に減少した。	(公園・児童遊園の整備) ●人口の増加に伴い区民一人当たりの公園面積が減少している。 →憩いや遊び、運動の場の充実 →地域住民の要望を反映した公園等の新設や改修 2 都市環境 ③良好なまちなみや景観の形成 (街路樹・緑道・街角広場の整備)に一部記述あり	(公園・児童遊園の整備) ●人口の増加に伴い公園需要が増加する中、区民等の憩いや遊び、運動の場の充実を図るため、大規模開発や公共用地の活用等により公園等の新設や拡張に努める。 ●地域住民の意見を反映した公園等の整備を進める。 2 都市環境 ③良好なまちなみや景観の形成 (街路樹・緑道・街角広場の整備)に一部記述あり
	(街路樹の整備) 2 都市環境 ③良好なまちなみや景観の形成 (街路樹・緑道・街角広場の整備)参照	(街路樹の整備) 2 都市環境 ③良好なまちなみや景観の形成 (街路樹・緑道・街角広場の整備)参照	(街路樹の整備) 2 都市環境 ③良好なまちなみや景観の形成 (街路樹・緑道・街角広場の整備)参照
②河川の水質向上	※計画事業は定めていない ●区は、 年4回(5、9、11、1月) 、河川の汚濁傾向と環境基準の適合状況を把握するため、区内 5河川・1運河 で調査を実施している。 (隅田川、神田川、日本橋川、亀島川、築地川、朝潮運河) ●平成27年度の調査では、魚などの生息に必要な溶存酸素量は、隅田川(中央大橋)、神田川(浅草橋)、日本橋川(日本橋)では、1月しか環境基準を満たしていなかった。	●河川の水質は環境基準を満たしていない項目が一部ある。 →さらなる水質の改善 ●水質改善に向けた流域自治体との連携や浚渫・下水道施設整備などの広域対策	●今後も区内5河川・1運河での調査を継続し、河川環境の把握に努める。 ●河川流域自治体で構成される協議会と連携して、都などの関係機関へ河川水質改善に向けた取組を要望する。 ※隅田川水系浄化対策連絡協議会(9区) (中央、台東、墨田、江東、北、荒川、板橋、練馬、足立) ※神田川水系水質監視連絡協議会(6区) (中央、千代田、文京、新宿、中野、杉並))
③生き物を育む空間の形成	(朝潮運河等護岸環境整備) ●月島二丁目先の護岸上部修景について詳細設計(延長:約300m)を行った。 ●地元説明会を 1回 開催した。 (船着場利用) ●朝潮運河船着場の利用は 7,350回 (前年度対比 1.0倍)、日本橋船着場の利用は 8,195回 (前年度対比 1.17倍)となり、水辺のにぎわいが創出された。	●東日本大震災以降、大規模地震に対する区民の不安が大きい。 →東京都と連携した朝潮運河や新月島運河などの耐震護岸の早急整備、護岸上部を多くの区民等に利用される憩いの場と整備 ●区内の河川や運河においては船着場の利用等が高まっている。 →「水の都中央区の復活」を目指す。 ●水上バスや水上タクシーなど利用者目線での水上交通ネットワーク充実、水辺でのイベント開催の促進→一層のにぎわい創出	(水辺整備) ●東京都による東京港海岸保全施設整備計画と連携し、朝潮運河や新月島運河などの水辺整備を進める。 (舟運の活性化) ●東京都が設置した「利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議」等を活用する。 ●周辺区や舟運事業者等の会議メンバーと連携を図りながら、交通ネットワークの充実をはじめ水辺空間のさらなる活用に向けた検討を進める。 ●東京2020オリンピックパラリンピック競技大会を控え、今後、外国人利用者の増加が見込まれるため、案内表示の多言語化を進め

4 自然環境 –水辺や緑に囲まれたまちをつくります–

※青字部分 数値目標を定めていない計画事業に関する記述

施策の柱	施策の達成状況	課題	今後の方向性
			<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域や隅田川ルネサンスなどと連携し、イベントを開催するなど、水辺の活性化を図る。 <p>※隅田川ルネサンス</p> <p>隅田川を中心とした水辺空間のさらなるにぎわい創出に向け、東京都と地元区、関係団体等で連携し進めている取組</p>